

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200220		
法人名	社会福祉法人 川岳福祉会		
事業所名	グループホームしあわせの里		
所在地	熊本県八代市二見本町字門前924-2		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成27年 3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症という病気を正しく理解し、その人のすべてを受け入れる気持ちで個人にあった支援を行っています ・ご家族との信頼関係を大切に、要望や意見を積極的に取り入れるよう心がけています ・地域社会の一員として、ホームの皆さんが安心して安全に暮らせるように努めます
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、交通の大動脈である国道3号線から少し入ったところに位置しています。そこはとても静かで、日当たりもよく、回りを緑に囲まれた、恵まれた自然環境の中にあります。建物自体にも、桜や杉などの建材がふんだんに使用されており、利用者の表情も穏やかでとてもアットホームな感じがしました。また、地域との交流にも力を入れています。地元自治会が運営している“しよい”で行われる山菜まつりには、職員も参加しています。その他、収穫祭やさとやまフェスタ等には、利用者ともども見学に出掛けています。事業所には、地域交流室設けられており、地域の方々の協力で餅つきをしたり、地域包括支援センターの力を借りて、利用者の家族や地域の方に対して勉強会や介護相談会等を行っています。ゆくゆくは、この取り組みを二見地区の交流の場として発展させたい意向のようです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、事業所としての理念があり新人研修にて法人理事長より勉強会がある。事業所の理念については、ホーム内に掲示することで常に意識して支援できるよう職員皆で共有を行っている	理念は、「認知症に対する知識を正しく理解し、個人にあったよりよいケアを行います。」等の大きな三項目などによって具体的な支援方法が記されている。理念は玄関と台所に掲示されており、特に台所についてはいつでも確認することができ、実践に繋げて欲しいという管理者の思いを感じ取れた。	理念には、具体的な支援方法が示されており、とてもわかりやすいと思います。実践できているかどうか、まず自分でチェックしてみることも必要ではないかと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や、学校行事にも積極的に参加するようにしている。昨年末の餅つきには地域の方の協力にて地域交流室を使い餅つきをおこなった。又、入居者と職員にて地域のふれあいウォーキングに参加し地域の行事にも参加でき、買い物なども地域の物産館を利用するなど交流なども深めることができた	町内には、地元自治会が運営する店舗“しよい”があり、ここで行われる山菜まつり等の催しには、積極的に参加している。地元の体育部が主催するふれあいウォーキングにも、利用者と一緒に参加し、交流を深めている。また、昨年末には地域の方の協力で餅つきを行っており、必要な道具類は地域の方にお借りしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室にて包括支援センターの主導での家族交流会や来年度にむけての交流室活用の一環として交流室内の看板作製をし地域の方へ活用して頂けるよう積極的に取り組んでいく予定である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回地域の方、家族の方を含め多数の委員の方に参加して頂いており、意見やアドバイスを出してもらっている。ほーとと委員だけの交流以外に委員同士の意見の交流も多く見られている	運営推進会議のメンバー構成は、長寿支援課職員、二見住民自治協議会会長、民生委員、二見出張所長、市制協力員、老人会長、区長、利用者の家族となっている。会議では、入居状況や活動報告、また研修会や勉強会等についても報告し、意見やアドバイスをもらっている。最近では、運営推進会議に合わせて避難訓練を実施しており、メンバーの他に地元消防団の協力も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密にとるように心がけているが、事業所からの発信は少ない	運営推進会議には、長寿支援課の主任、二見出張所所長、市制協力員が出席しており、市が主催する勉強会等にも極力出席するようにしている。管理者からは、書類提出等で役所に行くことはあるが、まだ事業所からの発信については、連携はまだ出来ていないとのことである。	

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が具体的な行為を理解しているかの確認は出来ていないが、身体拘束を行わないことを前提としたケアを職員への意識付けを行っている。研修や勉強会などを行って職員の身体拘束をしないケアの知識を養っている	事業所では、年間の研修計画に添って担当者が研修を行っている。身体拘束についても職員が担当しており、定例会のあとに勉強会をおこなっている。職員からは、薬の投与やスピーチロックについて話しが聞かれた。	スピーチロックについては、無意識のうちには言ってしまったり、思わず出ることもあると思います。職員同志で教える関係が出来ればと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で共有はしているが、振り返りと学ぶ機会として実施できていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会や講習会の参加などで学んではいるが、個々の必要性の話し合いや活用までは至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時または改定時にホームのケアの考え方を契約時に説明を行い同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族との交流を図り日々の様子を報告するとともに意見や要望を聞き、また面会簿の活用も生かしながら取り組んでいる	運営推進会議への家族の参加や地域交流室での家族交流会など、家族とのコミュニケーションづくりに取り組んでいる。また日頃の面会時にも交流を図り、意見や要望はないか等を聞くようにしている。事業所では、利用者ごとに面会簿を作成しており、意見交換に利用している。	これからも謙虚に耳を傾ける姿勢と意見や要望が言い易い環境づくりに取り組んでください。また、第三者苦情処理機関のポスター掲示を行って見てはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場で都度、職員からの意見が言えるような環境作りをしている。また、定例会議などの中で話し合っている	職員の話しからも意見が言いにくいことはないということであった。管理者からも、意見が言えるような環境作りを心がけており、一人の意見では決められないような時には、定例会議の中で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接などは行っておらず、日々の業務の合間を通して、個々の努力や勤務状況の把握に努め、やりがいなど各自の向上心に繋がるようにつとめている		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標・希望に応じて法人内外の研修を受けるように努めている 実践者研修等研修等今後は受けていくように声掛けをしていく予定である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代連絡会でのネットワークづくりや勉強会での交流に努めている。相互訪問は出来ていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の時点で困っている事、不安な事、要望は時間をかけ聞くように努めている。 入居時訪問などを通して、本人と話す時間を多く作るようにして思いを知る努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で困っている事や要望をじっくり聞き、思いを受け止めるよう関係づくりにも努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームを利用できない方でも相談の時間をつくり、本人やその家族に必要なサービスが利用できるよう支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもある利用者の方々にたくさんのお話を聞いてもらっているが敬う気持ちがない声掛けだったり、介護をしてあげるといふ場面も見られる		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告や相談を欠かさないように努めている。行事(誕生日会)等は可能な限り家族の参加を促している。家族と一緒に考え、支えあえるよう情報を共有している		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状況に応じて安心できる場所へ行ったり、自宅周辺の地域への訪問もしている。面会も家族に限らず、知人などもある。	自宅まで行って仏壇にお参りしたり、「この辺がご自宅だったんですよ」など、本人が安心できる場所への支援も行っている。また馴染みの美容室を今も利用しておられる方や、家族以外にも知人が面会に来られる利用者もおられる。事業所には、隣接して別の施設もあり、その利用者や家族との交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がその時々で関わりながら協力し合う事もみられる。また、時として助け合われていたり介助している姿も見られる。職員は見守るようにしながら、状況に応じて関わっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のお見舞いや退去後の自宅、施設等への面会など行っており、家族に対する相談援助などの関わりがあっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や表情、家族からの情報をもとに、本人の気持ちに添えるように努めているが、職員間の共有や利用者の立場での考える難しさはある	日常の関わりの中で、ケース記録を参考に言葉や表情、また行動等に注意を払い、本人の気持ちに添える様努めている。職員からは、日頃の動きや表情、また食事の状況やトイレの回数など、色々な方面から観察し、体調や意向の把握に努めているという意見が聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員が本人や家族との関係を築きながら、生活歴やなじみの暮らし方などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との毎日の関わりの中で見られる小さな気づきや提案を職員同士で共有できるよう情報交換に努めている		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人や家族、ケア担当者の意見を聞きながら、ケアプランへ反映させている	家族の意向や本人の思いを確認した上で、ケア担当者の意見も取り入れながら、現状に即した介護計画を作成している。家族の意向については、面会時を利用したり、電話による聴取を行ったりしている。モニタリングについては、ケアマネージャーが毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は業務開始前に申し送りを行い、ケース記録、業務日誌・連絡ノート等を読み、情報を共有している疑問点は確認を行いながらケアへあたっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と一緒に地域行事へ参加はしているが、それ以外の取り組みは殆どない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方から頂いた野菜を利用者と一緒に調理を行い食事を楽しんだり、地域の物産館のお祭りや地元の理髪店での散髪に出かけるなど行っているがまだまだ地域との交流は少なく地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への相談や情報交換を行う事は出来ている 家族だけの受診が難しい場合はホーム職員も同行するなどし対応している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。基本的には、家族による付き添いとなっているが、家族だけでは難しい場合もあり、その時は職員が同行している。夜間の対応については、協力病院と連携を取っており、病棟看護師と連携が取れるようにしている。現在、認知症の専門医を受診している方が3名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々気づいた事を管理者などへ相談し、状態によって訪問看護へ連絡、相談するなどして、早期発見につながり適切な受診や治療が行われている。八代市医師会訪問看護ステーションが週一回健康チェックを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の理解があつての入院受け入れは困難な場合が多いため、家族の意向を確認し、主治医への相談を行っている。家族や主治医と相談を重ね、なるべく早期退院ができるよう働きかけている。		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば看取りを行う事を契約時に説明し同意を得ているが、希望に沿った対応が可能かには不安が大きい 終末期は医療的な処置も必要となり、職員研修も必要でハードルは高い	本人・家族より希望があれば、看取りを行う旨を契約時に説明し、同意書を取り交わしている。ただ、管理者の異動も昨年の後半に行われており、まだ整備しないといけない点もあるようである。	看取りの重要性が指摘されています。まずは、医療機関との連携、家族の理解と協力、職員のスキルアップ等を充実させ、計画的に取り組んで欲しいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内会議で勉強を行っているが、全職員が急変や事故時に対応できる実践力を身に付けているかは確認できていないが、不安の声は多い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、消防訓練(避難・誘導・消火)を行った。運営推進会議の中で委員、利用者、家族の参加により総合訓練として実施した。災害時を想定した訓練には至らなかった	消防避難訓練は年に2回行われている。その内1回は夜間を想定して行っている。最近では、運営推進会議の日に消防訓練を実施しており、メンバーの他に利用者家族・地元消防団等の協力を得られている。また非常時の備えについては、飲料水、米、乾麺類などとなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を尊重した言葉遣い出来るよう、排泄時の配慮や意見の尊重と同調など、会議や実践の場で指導を行っているが不十分である	定例会の中で勉強会を行っている。基本的なところで、挨拶をきちんとすることや言葉使い、また部屋に入る場合のノックや排泄時・入浴時の配慮など、その他意見の尊重や徘徊時の同調など、気を付ける様話し合っている。管理者はまだ、努力の余地があると考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出出来る方に対しては、希望時に散歩・買い物などは出来ているが、うまく表現ができない方に対してもまず本人に聞くことを心掛けて対応しているが不十分である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の気持ちを大切にしようと努めているが、その日の職員体制などで希望を聞くことや添えないことがある		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内でのおしゃれは出来ていないこともあるが、身だしなみは心掛けて支援に努めている 外出時は家族や本人が選んで着られることもある四季に応じた衣替えを家族にお願いしているが対応が難しいところもある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味見、片づけなど相談しながらやることは多く見られるが、それを出る利用者は少ない おやつや行事食では意見を聞きながら作れているが、トロミやきざみ食の方もおられ食事を楽しむことが出来ているが疑問である	トロミ付けやキザミ食の方もおられ、本人の状態に応じた個別対応を行っている。ほとんどの方が自立しておられ、半分介助の方が1名程おられる。また、楽しく食べられるように趣向調査を行ったり、誕生会の食事や行事食などでは、工夫を行っている。調理に参加できる利用者は少なくなってきたとの事で、おせち料理づくりや干し柿づくり、餅つきなどは基本全員参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの職員が食事や水分の観察、記録は行っている。その人の状態に応じて支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアをおこなっている。訪問歯科往診の対応時にアドバイスや指導ももらっているが、定期的な往診にはなっていない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じてトイレへの誘導を行い、日中トイレで排泄してもらえよう努め、夜間以外はリハビリパンツを使用しないような支援している。	チェック表を記録しており、排泄パターンの把握に努めている。通路を移動したり、自分から訴えたり、ほとんどの方に尿意や便意はあるようである。リハビリパンツの使用については、夜間のみで、昼間はトイレでの排泄を支援している。また、一部介助の利用者については、出来るだけ自分の力を発揮してもらうような支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人にあわせた下剤の調整やヤクルト、ミルミルス等の整腸作用飲料も活用し、なかなか水分が取れない人へは果物やジュースなど好みや習慣に合わせた支援を行っている		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定者は入浴表をもとに入浴を提供しているが、本人の状態に応じ柔軟な対応に努めている。その方の気持ちとペースに合わせて支援している。	入浴回数は週に3回となっている。時間は10時～16時位となっており、気持ちよくお風呂に入ってもらえるよう、お湯はひとりひとり入れ替えている。また、ゆず湯やしょうぶ湯の支援を行っている。入浴を拒否される方もおられるようで、時間を開けて何回か声掛けを行っている。決して無理強いはしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて日中でも安心して休めるように支援している。夜間の就寝時間も本人のペースに合わせた柔軟な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名シートをファイルにまとめ、職員が確認できるようにしている。一人一人の職員が目的や副作用などの理解については十分でないと感じている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や、今までの家庭や仕事での役割を日々の生活の中で発揮できるような支援に努めているが十分でないところもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は散歩・買い物ぐらいになっているが、その日の本人の希望に添える事が出来ない時も多い。家族の協力の下での外出も減ってきている状態である	散歩には、ほぼ全員の方が行っている。その日の本人の希望には添えない事もある様であるが、買い物には“しよい”や日奈久またゆめタウンまで行くこともある。その他、二見自然の森や外食に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物など支払が出来る方が少なく、現在は出来ていない。神社や仏壇へのお賽銭程度である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙を書くことは難しいが、家族から送られてきた手紙を見たり、かかってきた電話で話をしている。正月には利用者の方々から年賀はがきを家族に出す取り組みを行っている。		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所での食事作りの香りや音、季節の野菜や花など、ウッドデッキから畑の桜の花や野菜、コスモスなどで、生活感や季節感を感じてもらえる空間づくりに努めている。	利用者の皆さんが集われるリビングは、桜や杉など馴染みの深い建材で仕上げられており、とても明るく穏やかな空間となっている。室内環境や感染予防にも力を入れており、朝一番の空気の入換えや加湿器の設置、また朝夕の次亜塩素による取っ手や手摺りの拭き上げ等も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下・ウッドデッキなどソファを置くなどして思い思いに過ごせる場所の工夫に努めているが十分でないところもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら馴染みの物や好みの物を用い、本人にとっての心地よい空間づくりに努めているが、十分でないところもある。	居室の基本的な設備はベッド、マットレス、空調機器、クローゼットとなっている。寝具や家具、日用品等については、使い慣れたものを持って来てもらうように話している。部屋には、写真などが貼られ、中にはテレビを持っている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所横の作業台の突出し・リビング・トイレのドアのレーンの段差の部分もあるが本人のわかること、出来る事を職員が把握して見守りに努めている。		